

はじめに

情報社会学会会員の皆様

情報社会学会誌 Vol11, No1 をお届けいたします。

本号では、3本の原著論文、4本の研究ノートを掲載いたします。いずれも、萌芽性、新規性、さらなる研究への期待があり、情報社会学への貢献は大きいと考えます。

原著論文「ソフトウェアテストにおける静的解析ツールの段階的適用による不具合修正工数の更なる低減—民生用音響・映像機器向け組み込みソフトウェア開発へのQACの段階的適用とその実証評価—」は、問題点としてソフトウェア不具合を早期に発見し、生産性向上に寄与する静的コード解析ツールに関する研究の着目点は、評価できます。

原著論文「gTLD空間拡張のドメイン名政策上の意味」は、ユニークな分析方法でInternet Corporation for Assigned Names and Numbers (ICANN)の「新gTLDプログラム」により新設された新gTLDの不可欠性を定量分析により明らかにし、その結果から各国政府およびICANNにとってのインターネット政策上の含意を導き出した点は、評価できます。

原著論文「SNS言語空間のベキ法則と安定分布」は、確率分布に関する論証も的確で、シミュレーション結果についても、説得力のある結果となっており、学問的価値が十分認められます。また、結論に至るまでの論旨も整理され形式的適格性も論文として十分と判断します。

研究ノート「クローラおよび機械学習を用いた観光ポータルサイトの提案—小規模宿泊施設のICTプロモーションのために—」は、小規模宿泊施設の現状を統計的に処理し、形式的適格性、学問的価値において掲載に値すると判断いたします。プロモーションのための方策としてクローラおよび機械学習を用いるのは、新規性もあり今後のシステム構築に期待します。

研究ノート「プロジェクトの構成に関わる不安定要因の研究—要件定義プロジェクトにおける安定性のモデル化について—」は、非常に定量化が難しい要件定義の評価をファジー理論で定式化するというユニークな論文です。今後の研究に期待します。

研究ノート「マンガ教材による若年層に向けた実効的な情報リテラシー教育の試み」は、若年層を中心にシェアを広げているLine題材として、マンガ教材を使った中学での情報リテラシー教育の実践を評価し、特に、漫画教材を設計、シナリオ作成、構築の手順は評価できます。今後の研究に期待します。

研究ノート「フェイス・ツー・フェイスのビジネス環境におけるチーム・マネジメント・モデル構築の研究—変革型リーダーシップ、社会関係資本、チーム効力感の因果関係モデル—」は、変革型リーダーシップとチーム効力感の関係性に社会関係資本概念を取り入れた興味深い論点を展開しています。今後の研究に期待します。

多くの研究が投稿され、多岐にわたる研究分野の成果が報告されました。今後のさらなる研究の発展に期待します。今後も会員皆様の積極的な研究活動に期待すると同時に、情報社会学に関する多彩なご投稿をお待ちしています。

2016年7月30日

情報社会学会
会長・編集委員長
大橋 正和

